

# 8月号 ミニレター

「子どもの理解研修Ⅲ」より

- ◆ 1 ページ
  - ・ 研修紹介 (子どもの理解研修Ⅲ)
  - ・ 学校紹介 (井口台中学校)
- ◆ 2 ページ
  - ・ 授業づくりシリーズ 学ぶ意欲が高まる授業を目指して (中学校理科編)
  - ・ 情報FLASH「道德教育」 (楽々園小学校)

## 研修紹介 コミュニケーションスキルとしての「きき方」のポイント

6月13日に広島国際大学 鈴木 佳奈先生を講師にお迎えし、「子どもの理解研修Ⅲ (コミュニケーションスキル)」を開催しました。

良好なコミュニケーションをとるための要素はいくつかありますが、今回は「コミュニケーションスキルの向上」をテーマに、「きき方」について教えて頂きました。研修では、「聴く」ことと「訊く」ことを、場面に応じて使い分けることがポイントであることを、課題解決の場面を想定した演習を通して、体験的に学びました。

### 演習の内容

(演習1)  
相互インタビューにより、人がもつ多様な価値観に気付く。  
「テーマ：あなたが、教育において大切にしていることは何ですか」

(演習2)  
価値観の違う者が協働して、納得感が得られるような合意形成を図る。  
「テーマ：クラスのどの学力層に合わせて授業を行いますか」



### 「きき方」のポイント

2つの「きく」を場面に応じて使い分けることが重要

- 「聴く」：話し手の存在を認め、肯定的に受け入れるきき方
- 「訊く」：相手から多くの情報や考えを引き出すためのきき方

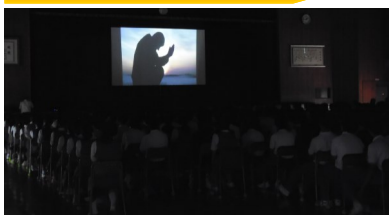
## 学校紹介 地域と一体となって取り組む防災訓練 井口台中学校

井口台中学校では今年度、中学校と公民館、社会福祉協議会等の地元住民グループがそれぞれ参加を呼びかけ、中学生300名を含む、総勢400名で合同の防災訓練を実施しました。

もし災害が発生した場合、多くの学校は避難所として開設され、多くの子どもたちは、地域の方々と一緒に避難することになります。そこで、地域と一体となって、地震が起きた場合を想定した防災訓練を行うことで、より防災意識を高めるとともに、地域との一体感を育てることができました。

### 当日の内容

#### ① 映画「無念」鑑賞



映画「無念」は、東日本大震災で大きな被害を受けた福島県浪江町の地元消防団の話です。瓦礫の下に取り残された多くの命を確認しながら、救助できなかった消防団員の苦悩を描いています。

#### ② 防災に関する講話



社会福祉協議会の会長や公民館の館長、地元ボランティアグループの方々が、地域で行っている防災関連行事について紹介をされました。また、地域が普段から一体となることの大切さについてお話されました。

#### ③ 参加者全員で避難訓練



生徒は一度教室に戻り、教室で地震発生の一斉避難(机の下に隠れる)を行いました。その後、全員で指定された避難場所(計画では運動場でしたが、雨のため体育館に変更)まで二次避難する訓練を行いました。

### 本取組の感想

- ・ 生徒→ 前半の映画の鑑賞と地域の方の話で防災への意識が高まりました。また、地域の方と一緒に行うことで、より真剣さが求められる状況であったので、普段以上に高い意識をもって防災訓練に取り組むことができました。
- ・ 地域の方→ 生徒が真剣に取り組む姿を目にし、学校へ協力しようとする意識が高まるとともに、地域と学校が一体となって取り組むことの重要性を再認識することができました。

～子どもの心に  
火をつける～



# 学ぶ意欲が高まる授業を目指して

子どもたちの「学ぶ意欲」を高めるためには、学習過程の場面の中の「振り返り場面」において、学習前の既有知識と学習を通して学んだことを比較させることで、自己の学びの成長を実感させることが重要です。今回は、自己の学びを振り返り、自己の考えや知識の変容を実感することで、学習意欲を高められると言われている「一枚ポートフォリオ」を活用した実践を紹介いたします。

## 振り返り場面の工夫

## 自己の学びの成長を実感させる一枚ポートフォリオの活用

中学校 理科編

＜東原中学校 荒木 靖弘 教諭の実践：一枚ポートフォリオを活用して＞

### [ 単元名：仕事とエネルギー ]

「一枚ポートフォリオ」(本実践においては、一単元で一枚のポートフォリオを活用)では、これから単元で学ぶ「キーワード」に関して記述させることで、学習前に生徒が持っている**既有知識(素朴概念)を自覚**させます。そして、学習のまとめごとに、学んだことを文章や絵、図で記述させます。単元の終わりには、再び「キーワード」に関して知っていることを記述させ、**学習前と比較させることで自己の学びの成長を実感**させることができます。

#### 単元の学習前

学習前に、「エネルギー」に関して知っていることを記述させることで、既有知識を自覚させます。

**生徒の記述例**  
エネルギーで物が動く。

#### 単元の学習を通して

単元の終わりに、学習前後の記述を比較させ、**知識や考えがどのように変わったか**を記述させます。

#### 学習のまとめりごとの振り返り

学習のまとめりごとに、学んだことを文章や絵を用いて記述させます。

<p>① 仕事について</p> <p>仕事…力×長さ、力の向きで物体が動いた距離の積</p> <p>単位にはジュールを用いる。1N×1mだと、その力の向きに1mだけ移動させたときの仕事が1Jになる。</p>	<p>③ 仕事率について</p> <p>仕事率はW(ワット)で表わすことができる。</p> <p>ある仕事をしたときの仕事を求めるには、その仕事にかけた時間で割る。</p> <p><b>仕事率 = 仕事(J) / かけた時間(s)</b></p>
<p>② 定滑車・動滑車について</p> <p>定滑車 動滑車</p> <p>力は1倍 引く距離1倍 / 力は2倍 引く距離2倍</p>	<p>④ エネルギー保存の法則について</p> <p>光 → 光エネルギー → 電気エネルギー → 電気エネルギー → 運動エネルギー → すべて熱と同じ</p> <p><b>エネルギー保存の法則!</b></p> <p>エネルギーはかわらなくても、変換が起きていく。</p> <p>エネルギーは変換が起きると、あるエネルギー(光)のエネルギーはなくなると同時に別のエネルギー(電気)のエネルギーが生まれる。</p>

#### 単元の学習後

単元の終わりに、「エネルギー」を用いて学んだ事をまとめさせます。

**生徒の記述例**  
エネルギーは互いに変換でき、位置・運動・熱・音・化学エネルギーなどがある。

### ＜実践者の声＞

生徒は初めの頃は学んだことをほとんど書くことができませんでしたが、続けて取り組んでいるうちに文章や絵を用いて、まとめることができるようになりました。また、学習前後の記述を比較させたことで、自己の学びの成長を感じる事ができたようです。

## 教育委員会発！ 情報FLASH

指導第一課から

### 地域に根ざした教材開発

～広島市道徳教育プログラム～

### 楽々園小学校

広島市教育委員会では平成22年度に「規範性をはぐくむための教材・活動プログラム」を策定し、取組を推進してきました。そしてこの度、広島にゆかりのある人物を扱った教材・活動プログラムを新たに加え、内容の充実を図り、「**広島市道徳教育プログラム**」として改訂しました。

今回は道徳教育実践研究校として楽々園小学校が作成した、地域に根ざした教材「**弱気は最大の敵** (津田恒美)」を紹介いたします。

地域に根ざした  
教材開発

#### 目的

郷土の先人の多様な生き方を通して、生きる勇気や知恵などを身近に感じ、生きることの魅力や意味の深さについて考えを深めることができるようにする。

## 楽々園小学校作成教材「弱気は最大の敵 (津田恒美)」

#### なぜ津田恒美なのか

津田投手の七転八起の人生は「一度決めたら最後までやり通す」「困難なことがあっても努力して立ち向かう」事を深く考えるきっかけとなる。

#### 本時のねらい

自分の目標のためにどんな困難が起こっても、最後まで希望と勇気をもって物事に取り組む態度を育てる。

#### 授業のようす



考えを伝え合う場面

#### 児童の反応

- ・(長縄練習について) これから先、やるかやらないか選ばないといけない時がきたら、自分が後悔しない方を選びたいです。
- ・(ピアノ練習について) 壁にぶつかったら、初歩的などころからやり直すという確実な方法をこれからも使いたいです。